

# 博物館 Dictionary No.237

～あなたに語る・時代を超えて生きる心～

展示中の作品について、研究員がわかりやすく解説します。

## 武将と能楽



図1 のうしやぞく べにじたてわく かえでちよもんようからおり  
能装束 紅地立涌に楓蝶文様唐織  
前熊コレクション能楽資料のうち  
江戸時代 17世紀 国(文化庁)蔵

みなさんは日本の伝統芸能である能楽を鑑賞したことがありますか？「能楽」とは能と狂言とをあわせた呼び方で、ことば自体は明治時代に作られました。ふたつは兄弟のような関係で、古くは一つの芸能でした。そのルーツは遠く奈良時代にまでさかのぼります。五穀豊穰を祈る、地域の暮らしに結びついた芸能と、曲芸や物まね芸などの雑多な芸能が影響しあい、さらに神社や寺の行事とも密接に関わりながら発展しました。そして、仮面（能面）をともなうミュージカルのような「能」と、セリフ中心のコメディ（喜劇）のような「狂言」の二つに分けられるようになりました。

能の主人公の多くは、この世のものではない、神・亡霊・精霊・鬼・天狗などです。その物語は、旅の僧の夢の中でくり広げられる「夢幻能」と、現実の人間が主人公の「現在能」とに大きく分けられます。なかでも夢幻能は、奥深くてはかり知れない「幽玄」の美を特徴としますが、その世界観を生み出したのが世阿弥(1363?~1443?)という南北朝から室町時代初期に活躍した美しい天才能役者でした。彼はそれまでの物まね中心であった芸能を洗練させて、歌や舞いが中心の芸術性豊かな芸能へと大改革しました。将軍・足利義満に特に大切にされた世阿弥は、貴族らの元で古典文学や和歌・連歌などを学び、その教養を能の中にも取り入れました。高貴な人々の好みになつた名作は、500年以上経た今もなお上演し続けられています。



図2 のうしやぞく しろじ からまついりくもだすきもんようあわせがらぎぬ  
能装束 白地唐松入雲襷文様袷狩衣  
前熊コレクション能楽資料のうち  
江戸時代 19世紀 国(文化庁)蔵

ももやまじ だい  
 桃山時代（16世紀後半）になると、能を好んだ天下人の豊臣秀吉は、自分が戦で立てがら ほ  
 た手柄を褒めたたえる能を新しく作らせました。秀吉はそれを自分で舞い、大名たちに  
 かんしょう  
 鑑賞させるほど熱中したのです。そのため、大名たちも秀吉とよい関係を保つために、  
 ひでよし  
 いつか共演しようとお声がかかるときに備え、役者を召し抱えて能や狂言を稽古しました。  
 きょうげん  
 能・狂言は武士にとって欠かせない教養となったのです。

とよとみひでよし  
 豊臣秀吉をはじめ、その甥・秀次や有力大名らは、本願寺の僧侶で、専門の役者顔負  
 おい ひでつぐ  
 けの演能活動を展開していた下間少進を能の師としていました。能装束 紅地立涌に楓蝶  
 のうしょうぞく べにじたてわく かえでちよう  
 のうしょうぞく  
 文様唐織（図1）は、能が盛んであった西本願寺にあったと伝わるものです。

まえだ としいえ ひでよし えいきよう  
 前田利家も秀吉の影響で能をはじめた武将の一人です。利家が治めた加賀藩では、そ  
 れきだいほんしゅ  
 の後も歴代藩主が能を愛し、能を演じるために数多くの能面や能装束を集めました。能  
 のうしょうぞく  
 しょうぞく しろ じ からまついりくもだすきもんようあわせかりぎぬ か がほん  
 装束 白地唐松入雲 襷文様 狩衣（図2）は加賀藩に伝わったもの、能装束 胴箔花洲浜文  
 ようぬいはく  
 様縫箔（図3）は、加賀藩から分かれた支藩の大聖寺藩に伝わったものです。

え ど じ だ い  
 江戸時代には、能は武家の式楽（正式な芸能）となり、大切な儀式をはじめ、将軍家や  
 うたげ  
 大名家がひらく宴の場などにて必ず上演されました。また、戦が無い時代の武士にとつ  
 いくき  
 ては、源平合戦などの壮絶な戦いの様子を描いた能を演じることで、武士の本来の姿を  
 げんべいがっせん そうぜつ  
 体感する機会にもなりました。能の動きは剣術の動きと似ているところも多く、能の稽古は  
 けんじゆつ  
 心と体を鍛える稽古にもなったのです。

きた けいこ

明治時代になると、武士の身分がなくなり能楽を支える人がいなくなったため、この芸能がなくなりそうになりました。しかし、武士に代わって、企業  
 きぎよう  
 を立ち上げた実業家や政治家たちが能  
 のう  
 を楽しむようになり、それらは「紳士能」

と呼ばれました。彼らは自分が舞うために、大名  
 ま  
 が手放した能面や能装束を買い集め、ここで紹介し  
 のうがく  
 た3点の能装束も、関西で証券業や林業で財を成し  
 のうしょうぞく しょうけんぎよう  
 た前田熊太郎氏のコレクションとなりました。やが  
 まえだ くまたらう  
 て能楽はひろく一般に普及し、江戸時代以上に盛ん  
 のうがく いっばん ふきゆう え ど じ だ い さか  
 な時代を迎えたのです。

やまうち まい こ  
 （工芸室 山内麻衣子）



図3 のうしょうぞく どうはくはな す はまもんようぬいはく  
 能装束 胴箔花洲浜文様縫箔  
 前熊コレクション能楽資料のうち  
 江戸時代 19世紀 国(文化庁)蔵